

歩くと見える景色がある

先月は、用賀の大山道に因んだ場所をご紹介しましたが、玉川地区にはまだまだ素晴らしい歴史スポットや「ほお〜」と思わず感嘆の声が出るポイントが数多くあります。今まで何度かご紹介してきましたが、その中でも個人的にお気に入りのスポットをご紹介。最近玉川地区に越して来た方は是非連休にでも歩いて見てください。きっと何か発見できます。

武家屋敷門

世田谷区指定有形文化財（建造物）
所在地:世田谷区岡本1丁目
建築形式:一重 切妻造 本瓦葺 背面一間下屋付
規模:桁行69尺（20.9メートル）
梁間22.4尺（6.79メートル）



武家屋敷門は、岡本1丁目のとあるマンションの敷地内の奥にある。そのため、車で走っていると見つけづらい。初めて訪れたとき、その大きさと重厚感に圧倒された。その思いは今でも変わっていない。訪れるたびに感動がある。お武家様とはすごいもんだ、と感心してしまう。説明版によると、この武家屋敷門は、元岡山藩池田家筆頭家老を代々勤めた、伊木家の下屋敷の表門であった。この下屋敷は、荒手屋敷とも呼ばれ、後樂園の下手の中州にあった。屋敷内には茶室も多く、十四代伊木忠澄は三猿齋と称し、茶人としても名高い。昭和12年、河川改修工事のため水没する屋敷地内の門及び茶室を、鮎川義介氏が譲り受け、千代田区紀尾井町の自宅内に移築した。その後、昭和38年屋敷を現在地に移し、その表門として使用されていたが、昭和53年多摩川テラス建設にあたり、場所を移動して復元保存された。



門の形式は長屋門で、屋根を切妻造、本河原葺とし、外壁は腰が海鼠壁で、他は漆喰の塗壁造りとなっている。間取りは、向かって右手が番所、左手が納戸部屋となっており、番所は正面に出格子、門扉に向かっては与力窓がそれぞれ付き、格式の高さを示す。中央には両開きの扉が入り、また、向かって右手には片開き戸（潜り戸）、左手は板壁となっている。両開扉の親柱の柱間寸法は10.05尺（3.05メートル）、材質は杉材、親柱及び冠木・出桁はいずれも松材が使用されている。門扉には吊り元に八双金物、饅頭金物、菱形の釘隠しも付けられている。建築年代は不詳であるが、部材の風触、各部の仕様、下屋敷の造営史等から、江戸時代中期（18世紀末期）頃と推定される。当門は、大藩の家老屋敷の表門としての格式を示す遺構とし貴重である。とのこと。とにかく一見の価値アリです。

採れたて世田谷野菜の自動販売機

武家屋敷門の近くで、野菜の自動販売機？というか販売ロッカーと言った方が正しいのか？手荷物を預けるようなロッカーに採れたて世田谷野菜が入られて売られていました。ほうれん草やキャベツ、蕪に大根、小松菜などが販売されています。きっと近くで栽培されているのでしょう。とても美味しそうです。入口横には「東京都特別栽培農産物」の表示が。東京都特別栽培農産物とは、東京都が、安全な都内産の農産物を、都民が安心して購入できるように、化学合成農薬と化学肥料の使用を5割以上削減した都内産の「特別栽培農産物」について認証しているものです。何か味がひと味もふた味も違うような気がします。きっと美味しいに違いありません。今度購入してみようと思います。素晴らしい邸宅が並ぶ中にこのような販売機が何気なくあるのが玉川の良さだと思います。



* いろはに乃サッチ#39「ゆ」 *

～油断大敵～

「ゆ」は、江戸と大阪が同じで「油断大敵」。これは、注意を少しでも怠れば、思わぬ失敗を招くから、十分に気をつけるべきであるという戒め。「油断」は気をゆるめること。油断は大失敗を招くから、どんなものより恐るべき敵として気をつけよ、という意味。京は「幽霊の浜風」。これは、幽霊が強い海の風に吹き飛ばされそうになっているさまから、元気がないさま、迫力のないさまのたとえ。そんな幽霊の姿を想像すると思わず可笑しさが込み上げてきますね。



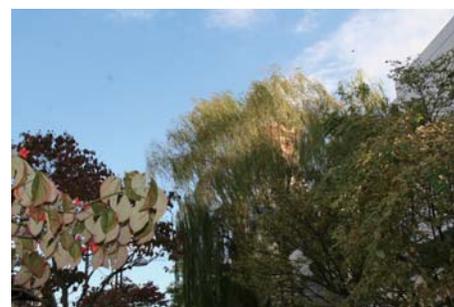
岡本3丁目の富士見坂

国分寺産線にあたる岡本3丁目の高台からの見晴らしには目を見張るものがあります。特にこの富士見坂からの見晴らしは最高。昼間は見えづらいですが正面に富士山が望めます。でも、車で坂を下りながら見るのは止めてください。危険です。と、言うまでもなく、この坂は急勾配なので無理だと思います。そういえば、かつて自動車教習中の坂道発進で泣きそうな思いをしたのは、この隣の坂だった気がします。



花みず木並木 (玉電跡)

GW頃の花みず木が満開の頃も素敵ですが、秋のこの時期も素敵です。とにかく一直線なのが好きです。学生時代だったらこれからの時期、ベンチか何かに座って「寒い寒い」と言いながら、肉まんか何かをほおばって「あったか〜い、美味しい〜」なんて言いながら友人といつまでもおしゃべりできるのに・・・なんて思ってしまう。玉電が走っていた頃の車窓からはどのような景色が見えていたのでしょうか？気になりますね。



瀬田貝塚跡

瀬田1丁目の高台に貝塚跡があるのをご存知ですか？初めてその事実を知った時は、こんな高い場所に貝塚跡があるなんてと、ビックリしました。縄文時代前期のものだそうで、当時は気温が温暖で海水がこの辺まで浸入していたためだそうです。右は、行善寺の猫塚。江戸時代に歓楽街で賑わった二子には料亭もたくさんあり芸妓さんも多数在籍。三味線も多数使われたため、猫を供養するために祀られました。



それ行け!!
アサッチ

谷川緑道

梅雨の時期には紫陽花が美しい谷川緑道の秋は、ちょっと寂しい感じがしますが、晴れた日はいい感じに陽が差します。小便小僧も健在。



瀬田地区会館の時計台

「鐘の鳴る丘」の歌詞を思わず口ずさみたくなる時計台。最近はこのような建物が少なくなり寂しいですね。

